

2050年を見据えた環境課題解決への貢献

世界の人口は、2015年の73億人から2050年に97億人、2100年には112億人に達する*と見込まれ、世界全体のGDPも拡大を続けています。新興国をはじめとする経済の発展に伴って、エネルギー消費の増大に起因するCO₂の排出増による地球温暖化、各種資源の需要増加による資源の枯渇、生態系の破壊など、さまざまな環境問題が深刻化し、豊かな地球を次世代へ引き継ぐため、環境負荷の低い社会の仕組みづくりが、世界規模で模索されています。

日立は、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、重要な社会課題である環境問題の解決に事業を通じて貢献していくことで、持続可能な社会の実現をめざしています。

* 国連「World Population Prospects: The 2015 Revision」による。

日立の環境ビジョン

深刻化する気候変動問題に対し、気温上昇を2℃未満に抑える目標などを含むパリ協定が採択されるなど、世界は一球となってその対策に取り組んでいます。社会イノベーション事業を推進する日立は、環境経営の視点から、長期的に実現をめざす姿を示した「環境ビジョン」を策定し、グローバルに環境課題の解決に貢献しています。

環境長期目標「日立環境イノベーション2050」

「環境ビジョン」がめざす社会を構成する「低炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」を実現していくために、環境長期目標「日立環境イノベーション2050」を策定しています。

「低炭素社会」においては、パリ協定などに盛り込まれた意欲的な数値目標に対応して「バリューチェーンを通して、CO₂排出量を2050年度までに80%削減」の目標を掲げました。実現に向けて製品・サービスの高効率化や低炭素エネルギーの供給に加え、革新的技術・ソリューションの開発を進めます。

「高度循環社会」をめざしていくために、お客様や社会とともに、事業を通じて、水・資源循環型社会の構築に最大限貢献していきます。また、日立が使用する水や資源の利用効率を2050年度までに50%改善します。

「自然共生社会」の実現のために、自然から生じる恵みを人類に与えてくれる「自然資本」に対して、日立が与える影響をできるかぎり減らしていきます。

環境ビジョン

日立は、ステークホルダーとの協創による社会イノベーション事業を通じて、環境課題を解決し、生活の質の向上と持続可能な社会の両立を実現します。

日立環境イノベーション2050

低炭素社会

- バリューチェーンを通して、CO₂排出量を2050年度までに**80%削減**、2030年度までに**50%削減**（2010年度比）

高度循環社会

- **水・資源循環型社会を構築**
- 水・資源利用効率を2050年度までに**50%改善**（日立グループ内 2010年度比）

自然共生社会

- 自然資本へのインパクトの**最小化**

事業活動による環境負荷の低減 (2015年度実績)

エコプロダクツの推進やCO₂排出量の削減、資源の有効活用など多面的なテーマを設定した「環境行動計画2013-2015」は、2015年度で3年にわたる改善活動を完了し、数多くの成果を達成することができました。

環境行動計画2013-2015の実績

カテゴリ	項目	指標	2015年度目標	2015年度実績
環境管理システムの構築	環境活動レベルの向上	環境活動の評価制度「GREEN 21」のGP (グリーンポイント)	640GP	646GP
	生態系 (生物多様性) の保全	生態系の保全に関する評価の実施	生態系保全アセスメントの実施を完了	完了
エコプロダクツの推進	環境適合製品の拡大	環境適合製品売上高 (売上収益) 比率	90%	95%
		環境適合製品セレクト機種数	340機種	409機種
業界最先端のファクトリー & オフィスの構築	エコファクトリー & オフィスセレクト認定の推進	エコファクトリー & オフィスセレクトの認定	各カンパニー/グループ会社で平均1以上を認定	新規認定: 15 継続認定: 58 合計: 73
地球温暖化の防止	エネルギー使用量原単位改善	エネルギー使用量原単位改善率 [グローバル] (基準年度: 2005年)	15%	16%

上記以外の主要指標に対応する取り組み内容は、「CSRへの取り組み」(ウェブサイト)をご覧ください。

バリューチェーンを通じた温室効果ガスの削減

日立は、バリューチェーン全体を通じた温室効果ガスの排出量を算定し、効果的な削減に取り組んでいます。特に、全体に占める割合が90%を超える販売した製品の使用に伴う排出量については、製品のライフサイクル全体における環境配慮の基準を満たした環境適合製品の開発により、継続的な削減を推進してきました。

日立のバリューチェーン各ステージでの温室効果ガス排出量の割合 (2015年度)

原材料・部品の調達 3.2%



環境適合製品の開発と拡大

日立は、製品・サービスによる環境への負荷を低減するために、環境に配慮した「環境適合製品」の開発を推進してきました。

「環境適合製品」とは、開発・設計時に環境面への配慮を評価し、基準を満たした製品のことで、2015年度までは、環境適合製品の開発を推進するために売上高 (売上収益) に占める環境適合製品の比率である「環境適合製品売上高 (売上収益) 比率」を高めることを目標に掲げ、2015年度に95%を達成しました。2016年度からは、環境価値の高い製品・サービスを開発し普及させることで環境課題の解決に貢献することを目的として、新たな取り組みを開始します。

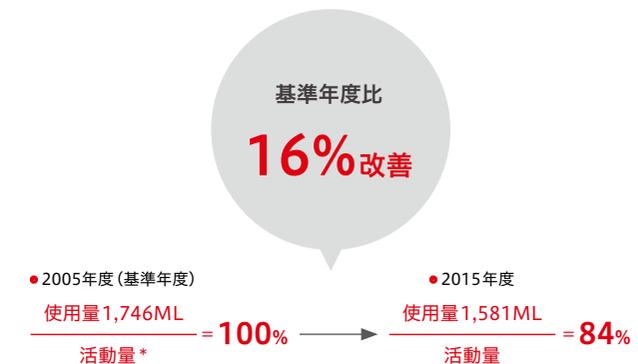
▶【主要指標】環境適合製品売上高 (売上収益) 比率 (P.55参照)

ファクトリー & オフィスにおける地球温暖化対策

日立は、地球温暖化の防止に貢献するため、製造部門や業務部門での生産活動や輸送における効率的なエネルギー利用により温室効果ガスの削減を進めています。

エネルギーの効率的な利用の指標としてエネルギー使用量原単位の改善に取り組み、2015年度は、エネルギー使用量原単位改善率15% (基準年度: 2005年) の目標に対して16%を達成しました。改善活動としてLED照明やインバータ空調などの高効率機器の導入を進め、照明や設備個々の効率を計画的に改善しています。また、自社の強みである制御、IT技術を工場やオフィスの省エネに積極的に活用し、効率的なエネルギー使用を進めています。

エネルギー使用量原単位



* 事業活動に伴うエネルギー使用量などの原単位分子 (環境負荷量) と密接な関係をもつ値 (例: 生産数量、生産高、建物床面積、従業員数など)。

▶【主要指標】CO₂排出量の推移 (P.55参照)